

六^む連^{れん}銭^{せん}

平成17年1月

〒381-1231 長野市松代町松代4-1(真田宝物館)



鴻門会図

松代藩・真田家の初代藩主・信之夫人(大蓮院)の持ち込み品といわれる。『史記』から画題をとっており、項羽と劉邦の会見の場面を描いている。狩野永徳の筆という。もとは枕屏風であったが、近代になって行われた、江戸三百年祭に出品した折に、東京で表装されたうえ返却された。大英寺所蔵

長国寺の名宝

長国寺は長野市松代町にある曹洞宗の寺院です。山号を真田山といえます。はじめ真田幸綱(幸隆とも)が、天文16年(1547)に小県郡真田の地に建立した長谷寺がはじまりとされます。

元和8年(1622)に、真田信之が上田から松代に移封されると、同寺を松代城下に移して長国寺としました。

長国寺は真田家の菩提寺として重要な寺院でした。寺内には真田信之の霊屋をはじめとする廟堂が建てられており、また、真田家の墓地も所在します。歴代藩主の命日には法会が営まれるなど、真田家とは緊密な関係にありました。

長国寺が所蔵する絵画類には、真田家からの寄進物も見受けられます。ことに、羅漢図は明治に入ってから真田家が長国寺に寄進したということが真田家文書から確認されます。長国寺は真田家と深くかかわってきた寺院ですので、長国寺の諸資料の研究が、真田家のあり方の研究につながるものと考えられることができます。



豊干禅師・寒山・拾得図(次ページ写真)

箱書には「豊干禅師 寒山 拾得 法眼五流 晴山筆 三幅対」とある。寒山拾得は松代藩御用絵師・三村晴山の筆。豊干禅師は法眼五流の筆である。



十六羅漢図(写真上)

箱書には「十六羅漢 真常院殿 御寄進 三幅対」とあり、また軸には「十六羅漢三幅対 貞享元甲子曆小春十七日 真常院殿御寄付 長国寺十世寒月代」とある。三代藩主・幸道が貞享元年(1684)に長国寺に寄進したものであることがわかる。



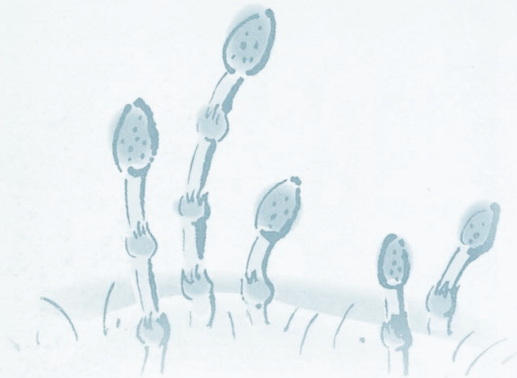


大英寺の名宝

長野市松代町にある大英寺は、松代藩・真田家初代藩主・真田信之夫人の菩提を弔うために建立されました。信之が上田城主であったときに夫人は亡くなっていますが、松代に移封になると、松代城下に大英寺を建立し、寺内には夫人の霊屋をつくっています。

この霊屋は、現在、長野県の指定文化財（長野県宝）となっています。

大英寺には、信之夫人ゆかりの調度品をはじめとして、歴代藩主から寄進された絵画類などが伝わっています。



柿本人麻呂像

松代藩御用絵師・三村自閑斎の筆。
七十四歳のときのものと記している。



聖徳太子像

八代藩主・真田幸貫の筆。孝養太子の像。

羅漢図

長国寺に伝わるこの羅漢図は、「嘉永七寅年十一月 御預御道具帳 表御納戸」(真田家文書)に記載があります。「雪舟筆名印有之一三幅 羅漢」とあり、「辛未九月十八日 長国寺江被下」との書き込みがあります。明治四年に真田家から長国寺へ寄進されたものであることがわかります。

表御納戸で管理していた掛軸であったことがさきの文書からわかりますが、その用途ははっきりしません。おそらくは三幅対の掛軸ということから、藩主に近い場所で飾られたものと想定されます。

この掛軸には「第八尊者伐闍羅弗多羅 右四」「第九尊者成博迦 左五」「第十二尊者那伽犀那 右六」とあり、本来は十六尊(十六軸)あつた羅漢図のなかの三点という可能性がります。

雪舟筆とありますが、右下の書き込みから想定すると、「高仲」なる人物が雪舟の作品を写したものであると考えられます。

